

## 知恵と工夫で“個”に対応する 金属板金加工スペシャリスト

納期相談  
オンライン技術  
メイドイン  
ジャパン  
試作可  
小ロット



モニュメントなど大型で複雑な加工にも対応

### 業務内容 意匠性の高い 複雑な形状に対応

「野田金属工業」は、ステンレスや鉄、アルミなどの金属の切断、穴開け、レーザー加工、曲げ加工まで一貫して対応した板金加工を行っている。創業以来、量産品ではなくオーダー品にこだわり、建築装飾金物を中心にテナント用建具、国内外の有名ブランドショップなどの店舗内外装部材や看板、機械板金、オブジェ・モニュメントなどの製品を作る。

例えば建築金物のサッシやシャッターなど、最長6mまでの折り曲げができる。オブジェ・モニュメントは図面がなく紙の模型だけの状態から製作するなど、複雑な形状にも対応できるのは、CADによる図面展開に終わらない長年に渡る知恵と工夫によるものだ。

### 強み 同業他社からも依頼 協力し合う関係を構築

同社が他社では加工できない大きさや形状でも取り扱っていることを頼りに、材料問屋からも加工の仕事が入る。同業他社と共に協力し合う関係を築いており、そこからの加工依頼も多いのも特徴だ。

「量より個を大切に！」というのが同社のモットー。大手企業ではなく口コミによる小口のユーザーが中心で、年間200社に及ぶ異業種のユーザーと取引をしている。独自の生産管理システムを導入して、これらのユーザーからの一品一様で短納期の物件に対応している。

### 原点 難民生活の中の 手作りの鋼

日本の敗戦時、創業者である野田邦雄

会長が旧満州で難民生活中、多数の同胞が飢えて斃れていく中で生きるために作った鉄製の鍋。極限の世界で道具もない中で作ったその鍋が、多くの同胞の命を救い喜ばれた。その貴重な体験が金属加工業を創業する原動力になった。

だから、機械に頼るのでなく人の手による“無形の技術力”も生かし、新たな創意工夫を積み重ねながら、企業だけでなく個人のユーザーにも対応する。工場をオープンにし、府内外より工場見学を積極的に受け入れ、このものづくりの伝承にも力を入れる。

### 今後の展望 “個”を大切にする ものづくりの継承

ここ数年かけて行ってきた工場設備の更新も一通り終わり、今後はこれら設備を用いて最新の技術と人の手によるアナログ加工を組み合わせ、また新たな創意工夫に挑む。特に近年はコンピューターによる技術革新に焦点が当たっているが、人の感性を大切にしたいものづくりに注力する。

そのために、人と人のつながり、“個”を大切にしたい仕事が続ける。それは決して業績の大きな拡大を見込めるものでないかもしれないが、どんな時代を迎えることになっても、創業の基になった“鍋”のように皆が求める根源的なものを追求していく。



自社工場の作業風景



ギリシャ・マラトン競技場のモニュメント

## 当社の歴史



昭和40年に私が創業しました。戦後、ステンレス鋼板の普及をいち早く感じとり、建築装飾金物の金属加工を始めました。決して順風満帆にきたわけではありませんでしたが、その中からユーザーの喜ぶことを徹底して行うことの大切さを学んできました。これからもユーザーとの接触を大切にしていきます。

代表取締役会長 野田 邦雄さん

<http://www.art-noda.jp/>

### 主な事業内容

建築装飾金物、看板、モニュメントなどの金属板金加工

### 主な取引先(納入先)

建築金物メーカー、シャッター・サッシメーカー、エレベーターメーカー

- 住所 〒578-0977 東大阪市 鴻池徳庵町4-8
- TEL 06-6744-1350
- FAX 06-6744-1361
- 創業 昭和40年4月
- 設立 昭和48年2月
- 資本金 3,700万円
- 従業員 29名